

### アーシャ事務局便り

※ あなたの想いを世界へ、あなたのご寄付でアーシャの活動を支援してください。



#### 2026年度定期総会ご案内

日時 6月13日(土)13時~16時  
那須塩原市健康長寿センター調理室にて、2026年度定期総会を対面とオンライン同時で開催いたします。会員以外の方もご参加いただけます。参加希望される方は、前日までに国内事務局までご連絡ください。総会后、懇親会も予定しています。

#### 2025年定期総会のご報告

12月18日は8名の出席でオンライン理事懇談会が開催され、三浦副代表より、中間報告がなされました。  
\* 2025年度のSCSADコースには、カソリックシスター2名とマニプールの青年が熱心に学びを続けていること。  
\* St. John 女子修道会から4名が豆腐/モリンガの短期研修に訪れたこと。  
\* デリー日本人会ボランティアグループの訪問とご寄付があったこと。

\*スタディツアーとインターンシッププログラムを3月実施予定であることなど報告されました。  
その後、アーシャの今後について特にフェアトレード商品の今後の展開についてSNSを利用する方法など活発な議論がなされました。

#### とちぎコープNPO助成

各種助成事業やJICA事業への申請を行っておりますが、採択されることが大変困難な時代に入っています。そんな中で、1月締切だった「2026年度とちぎコープNPO法人助成金」に申請したところ、47団体中10団体が選ばれアーシャも4月に20万円の助成金を受け取ることができました。11月頃、地元の子育てグループと共にモリンガを活用する栄養教室を開催予定です。

### 新規会員募集と 会員ご継続のお願い

当会の活動は会員の皆様の会費とご寄付に支えられています。皆様よりご支援・ご協力をいただき、活動を継続できますことを心より感謝申し上げます。アーシャの活動をさらに発展・強化するために、会員のご継続と会費のご納付・ご寄付、どうぞ、よろしくお願いいたします。振込用紙の必要な方は事務局までご連絡ください。

<http://ashaasia.org/shien1/>

ネットショップ「ASHA STORE」でも商品販売に加え・会費・ご寄付・募金を扱っています  
<https://ashaasia.stores.jp/>



### 事務局よりお知らせ

会費・寄付ありがとうございました。2025.11.26~2026.4.30 順不同、敬称略  
誤字・記載漏れがございましたらご面倒でも事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

- 正会員 【栃木県】三浦邦彦、カバリエロ優子、渡部静子、辻野留奈、菊地創、長嶋清、【福井県】松田宗一【東京都】米山敏裕、【山形県】志藤正一、三浦恒祺【兵庫県】藤岡秀英
- 終身賛助会員 【神奈川県】柴田有
- 賛助会員 【東京都】松橋尚子、吉田千佳子、吉松野乃子、藤原璃奈、南部優實、根本柊、森康、阿部柳太郎  
【栃木県】川上聖子、郷かして、平岩恵美子、池田桂子【福岡県】坂口馨子  
【北海道】伊藤遼太【山形県】長南正明
- 団体賛助会員 【栃木県】那須塩原教会
- 一般寄付 【東京都】吉田千佳子【愛知県】林宗弘【神奈川県】湯本浩之【埼玉県】奥起久子、角田正恵  
【三重県】野村行生【静岡県】古橋克己
- クリスマス募金 【東京都】石川通子、【山形県】志藤正一【東京都】松橋尚子【神奈川県】柴田有  
【長野県】下山田誠子【栃木県】カバリエロ優子、西那須野教会【山形県】荘内教会保育園

■会費 個人正会員 5,000円 団体正会員 20,000円 終身個人正会員 50,000円 終身団体正会員 100,000円  
個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 10,000円 終身個人賛助会員 30,000円 終身団体賛助会員 50,000円

■郵便振替 加入者名：アーシャ=アジアの農民と歩む会 口座番号：00160-0-315147 (会費・ご寄付はこちらへ)

マキノスクールは、インド、ウツタル・プラデッシュ州ブラヤグラージで活動するサム・ヒギンボトム農工科学大学にある学部で、本会が主に支援している団体です。実施している事業は、アーシャの会員の皆様からの会費・ご寄付、ご支援、インド三浦後援会、日本国外の様々な団体、個人の皆様からのご支援によって運営されています。プロジェクトを実施するにあたり、日本の皆様からの多大なご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会

☆この会報は日本で製作・印刷しています☆

<事務局・交流センター> 〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢83-17 TEL: 0287-47-7840 FAX: 0287-47-7841

事務局 E-MAIL: info.jp@ashaasia.org ホームページ: http://www.ashaasia.org



特定非営利活動法人

# アーシャ

アジアの農民と歩む会

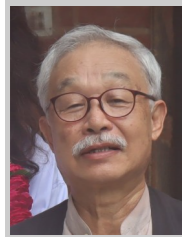
会報  
78号



### 2025年度SCSAD卒業式

2026年3月20日、2025年度SCSAD卒業式が挙行されました。北東インド・マニプール州のロンメイナガ・バプテスト開 濃い学びの場となり、とりわけスタッフと学生が協働しながら学べたことは、双方にとって大変有意義な経験となりました。また、マキノスクールでの異文化交流プログラムでは、彼らが積極的にリーダーシップを発揮しました。卒業生たちは、すでに所属する孤児院や農場、村において、菌床キノコ栽培などの活動を開始しています。今後のさらなる活躍が期待されます。





## 理想的な理念と 伝統的差別社会の狭間で

インド事業統括責任者 三浦照男

国連が提唱する「持続可能な発展」は、今では広く知られ、開発目標の中でもよく耳にする言葉となりました。マキノスクールでも、2004年より「持続可能な活動と発展」を標語に掲げ、活動を続けてきました。20年以上にわたり活動を継続する中で、その目標に向かう道の途中には、幾重もの厳しく強固な壁が存在することを身をもって感じています。

日本という特異な環境の中で生まれ育ち、その価値観を身につけてきた私にとって、インドという、文化や歴史、民族、そして伝統的価値観の大きく異なる国を理解することの難しさを、あらためて認識する日々です。

民俗学者の梅棹忠夫は、その著書『文明の生態史観』の中で、インドを東洋でも西洋でもない「中洋」であると述べています。その独自性に対する驚きが入められた言葉のようにも感じられます。

特に、インドの主要宗教であるヒンドゥー教を根幹とした価値観には、他とは相容れない独自性が数多く存在します。理解はできても、容易には受け入れがたいと感じることも少なくありません。しかし一方で、それらを単純に否定することもできないのが現実です。インドがEUやロシア、中国などの大国と肩を並べる勢いをもちながらも、特定の国と強固な同盟関係を結ばない、あるいは結べない背景にも、そうした独自性が表れているように思われます。人口増加やIT産業の発展によって、その存在感がますます高まる中、インドをどのように捉えるべきか、世界の注目が集まっています。

### インドにおけるカースト制度とリーダーシップ

22年間インドで活動する中で、大きな課題となってきたのは、インドのカースト制度をどのように捉え、理解し、向き合っていくかということでした。上層カーストであるバラモン（司祭階級）、クシャトリア（王族・武人階級）、そしてヴァイシャ（商人・地主などの農民）は、全インド人口の15%程度に過ぎないにもかかわらず、長年にわたりインド社会のリーダー層として、その地位を占めてきました。彼らの多くは高い教育を受け、政治・経済・教育の分野を担う指導層としての役割を果たしてきた経緯があり、近年の経済発展の恩恵も比較的大きく受けています。一方、下層カーストであるシュードラ（農民・労働階層）や不可触民と呼ばれてきた人々は、全人口の85%を占めています。社会の底辺で暮らす多くの人々は、

インドの著しい経済発展の陰で、今なお過酷な生活を強いられています。さらに、この下層カーストには200以上あるともいわれるジャティー（職業的カースト）が存在し、その間にも複雑な差別構造があります。

### インドのカースト制度の歴史

インドのカースト制度は、15世紀以降の中央アジアからのイスラム勢力による侵略・支配、さらにイギリスによる植民地支配の中で、「少数の支配者が多数を統治する」ための効果的な手段として強化され、利用されてきました。1947年、インド独立の際には、自らも不可触民出身であり初代法務大臣を務めたビームラーオ・アンバードカル博士が、カースト制度そのものの廃止に尽力しました。しかし、インド独立の父と称されるマハトマ・ガンディーとの考え方の違いもあり、その実現には至りませんでした。結果として、憲法には「カーストによる差別を禁止する」という条項が盛り込まれるにとどまり、制度そのものは存続することになったのです。

### マキノスクールでの試み

マキノスクールにおいても、農村開発部門のリーダーには上位カースト出身者が多く配置されていました。教育部門や農村開発部門の主任は、バラモン出身者や社会的地位の高いキリスト教徒が担い、その下で現地農村出身のスタッフたちが働いていたのです。おそらく私の前任者は、インド社会に根付くカースト制度に基づいた役割分担を無視できないと考え、そのような体制をとっていたのだと思います。実際、主任クラスのスタッフは、どの村を訪れても厚遇され、彼らの話には人々を引きつける力がありました。

しかし同時に、「平和で平等な機会が与えられる社会を実現するために、カースト制度のような差別的価値観を温存したままでよいのだろうか」という自問も生まれました。確かにカースト制度は、多民族国家であるインドにおいて、下剋上の争いのある程度抑制する役割を果たしてきた側面もあるのかもしれませんが、しかし、平等な雇用や教育の機会、自由な職業選択、男女平等といった近代民主主義の観点から見たとき、私はそれを受け入れることができませんでした。

「マキノスクールの門をくぐれば、カースト差別は許されません。」私は朝の全体集会で、繰り返しそのことを訴えました。また、研修事業や伝習農場の主任には不可触民出身者を、食品加工部門の責任者や主任には下位カースト出身の男女を積極的に起用しました。

### カースト差別は根深く、心理的にも複雑

最初に問題が起きたのは、有機農業の研修を受けていた農村出



## 梅雨と暑い夏を乗切る カディコットン ブラウスのすすめ

国内事務局長・三浦 孝子

那須高原の5月は、暑くも寒くもなく、心地よい季節です。田植えを終えたばかりの苗はやわらかな風にそよぎ鯉のぼりは青空を泳ぎ、新緑がきらきらとまぶしく輝いています。

一方、同じ5月でも北インドでは、最初の10日間で最低気温20℃台半ば、最高気温は40℃に迫り、中旬には40℃を超えます。マキノスクールも公立学校と同じく、酷暑期となる5月中旬～6月末まで夏季休暇となります。右の写真は2019年5月31日午前中、モリンガ収穫時の気温です。43.9℃！



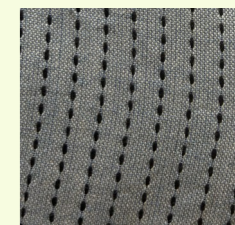
日本でも、地球温暖化や偏西風の北寄りの流れの影響により、今年も3年連続で「猛暑」となる予測が出ています。梅雨の蒸し暑さに続き、7月から8月には40℃に迫る、あるいはそれを超える暑さも予想されています。

そうした厳しい季節を少しでも快適に過ごすため、さまざまな冷感衣類が出回る中で、インドのマダムたちが酷暑用の高級サリーとして愛用している天然素材・カディコットン100%のブラウスはいかがでしょうか。

**AVSの女性たちが一枚一枚、心を込めて縫製した新商品です。**



インドでは、シルクよりも暑い季節はカディと言われるくらい、手紡ぎ糸で織り込んだ生地は独得の風合いを生み出し、肌との間に空気をはらむような軽やかさと優れた通気性が特徴です。日本の紺のような風合いのブラウスをぜひ、お試しください。



右上ブラウスの生地拡大写真

数量限定で入荷していますので、お早めにお声かけください。(アーシャ事務局 0287-47-7840) 在庫写真をお送りしてお選びいただけます。フリーサイズ(およそ9~11号女性用のみ)です。生地選びからオーダーメイドも可能ですが、その場合、マキノスクールの夏季休暇後に縫製となりますので、7月中旬のお届けとなります。風通しがよく、ウォーキングにもぴったりと言われているコットン100%のヨガパンツやスカートと合わせてお楽しみください。カタログやASHASTOREでもご覧いただけます。



←アーシャ  
ホームページ  
AVSカタログ  
(写真右)  
があります

クレジットカードが使える通販  
サイト ASHASTOREはこちら→

お問い合わせは、お気軽に国内事務局  
0287-47-7840 まで。





## スタディーツアー インド再訪

元JOCS派遣専門家・  
有機農業実践者・角田正恵

インド旅行、2日目の朝、この旅に動向してくれている弟が、スマホを見ながらイランの最高指導者ハメネイ師が殺されたと言った。イランでは民主化運動が盛り上がっていると聞いていたので、その筋かと思ったら、アメリカとイスラエルの攻撃で殺害されたという。その後、大谷がWBCで満塁ホームランを撃ったというニュースがきてイランの話題はつきた。

3月10日に帰国すると、池袋は大粒の雪で地面も屋根も白く積もっていた。35℃のインド帰りには寒さが身に浸みた。日本政府は早々に石油の備蓄を放出すると発表し鎮静化を計ろうとするが、いち早くガソリンスタンドは10～20円の値上げする事態である。3月16日灯油の配達を依頼すると、灯油缶1缶のみしかできないと言い、値段も千円近い値上がりが告げられる。世界不安があつという間に茶の間に跳ね返ってきた。日々刻々と状況は動いているがインド旅行はこんな時勢の中行われていたことを書き記しておきたい。

### 15年ぶりのインド

さて、10日間のインド旅行は15年ぶりであって興味は尽きない。世界第4位の経済大国に躍り出たインドの変化に興味深く観察した。

交通網の整備と発達、デリーからプラヤグラージに向かう車窓から眺める広大な畑には、いくつものレンガ工場が稼働している。消費生活は活況を呈しスーパーマーケットだけでなく、街中露店も消費の動向は盛んであった。小さな露店で、スマホ関連グッズの商いをしている店主は若く、一人くらいを使つての経営も順調のようでAI大国を印象付けている。

しかし、その反面、乞食の数は減っているように感じたが相変わらず、布切れ一枚敷き、駅で横になっている人は多かった。また、河川敷きや大きな鉄橋の下、大きな駅の周辺など貧民街が続き1日のわずかな糧を求める人々の顔は暗く痩せていた。

### ベナラシへの旅行

旅の最後の二日間はベナラシでガンジス川の沐浴を眺めた。

15年前は広大な川幅で向こう岸がかすんでいる程だったが、今は堆積された砂地が半分を占め水量は減っている。これも



スタディーツアー参加者と筆者（中央）

気候変動が関係しているのだろうか。

朝の沐浴と夕方に行われる火の礼拝儀式を見学した。あふれるばかりの人波ですさまじいエネルギーを感じるが一方、信仰という意味での熱量と深さは減しているようだ。歴史遺産や仏教遺跡にも足を運んだがきれいに整備された公園になっていて人々は三々五々散歩していた。

それは日本でいえば隅田川の花火大会とか日光東照宮への参詣などに通じる見物という物見遊山になっている、という言いすぎだろうか。

### マキノスクールのプログラムについて観想を述べてみたい。

15年前に比べると、事業も設備も順調に伸びていると感じた。働き人も味噌、醤油や豆腐に馴染んできている。但し、人材が流動的であることは否めない。

農村に対する働きかけも、農法や作物への影響が顕著に見受けられる。ご努力に対し深く敬意を申し上げる。今後の発展に期待している。このスタディーツアーを企画してくださった方々に感謝いたします。



ガンジス河とヤムナ河の交流地点にあるヒンズー教の聖地サンガムにてツアー参加者と共に（左端筆者）



身の若者4名による窃盗事件でした。彼らは、先に述べた農場主任の指導の下で研修を受けていましたが、他の研修生が栽培していた野菜を複数回盗んでいたのです。農場主任からの報告を受け、彼らが宿泊していたファームハウスを確認したところ10キロ以上はあると思われる野菜の入った麻袋が5袋も見つかりました。私は4名に対し、朝の集会で謝罪し、反省文を書くよう厳しく求めました。2名はそれに応じましたが、残る2名は拒否し、そのまま研修を辞めてしまいました。後に仲間から話を聞くと、「不可触民出身者の下で研修などできるのか」という感情が背景にあったようです。彼ら自身もシュードラに属する下層カーストではありましたが、不可触民よりは上位であるという強い優越意識を持っていたのです。

同様の問題は、女性たちのための縫製事業においても何度か確認されています。

### カースト制度をどのように捉えるか

多くの有能なインド人が世界へ羽ばたき、異国の地でカーストの壁を越えながら重要な地位を築いています。マキノスクールが所属する大学でも、教授陣の子どもや親族が欧米で学び、そのまま市民権を得て現地で暮らしているという話は、もはや珍しいことではありません。一方で農村部では、「農業は下層カーストの仕事であり、現金収入も少ない」という意識から、農村を離れる若者が増えているのが現状です。14億人を超える人口を支え、安定した社会を築いていくためにも、インドの農業と、その担い手となる後継者の育成は、今後ますます重要になってくるでしょう。持続可能な発展を実現するためにも、カースト的価値観を超えた、新しい農業の価値観を伝えていく必要があるように感じています。

### 2025年度JICA草の根技術協力事業に申請 しましたが、残念ながら採択には至りませんでした

前回の申請は採択されていましたが、カウンターパート団体のFCRA（海外からの支援金・助成金を受け取るための政府認可口座）が突然取り消され、インド政府によるプロジェクト承認が得られず、残念ながら実施には至りませんでした。今回は、採択決定前までにカウンターパート団体がFCRAを取得できなかったことが、大きな要因であったと考えています。

本プロジェクトでは、グジャラート州の先住民地域の農村にお

### インドのカースト制は

ヒンドゥー教に基づく身分制度で、ヴァルナとジャーティという二つの概念により社会階層が形成され、現代でも社会や法律に影響を与えています。

### カースト制の起源と歴史

カースト制は、紀元前1500年頃に中央アジアからインドへ進出したアーリア人によってもたらされ、先住民との支配・被支配関係の中で、肌の色や職業に基づく階層構造が形成されたとしていいます。元々はヒンドゥー教の宗教的教義に基づき、バラモン（祭司）、クシャトリア（王族・武士）、ヴァイシャ（商人・農民）、シュードラ（労働者・隷属民）の4つのヴァルナに分けられました。時代が下るにつれ、世襲職業や血縁に基づくジャーティという細分化された共同体が形成され、親の身分が子に引き継がれる封建的な社会構造が確立しました。（Copilotsより）カースト制は単なる「身分のランク」ではなく、結婚や食事、職業まで、人々の暮らしの隅々に深く入り込んだ制度なのです。

全人口の2割にも満たない人々が現在でも、優位な立場にあることは将来の社会不安を高める要因ともなります。また、食べものをつくる、農村で働くという職業は低いカーストと考えられています。6割の人口が農村に住むと言われているインドにおいては農村、農業の重要性をより真剣に考えるべき時だと感じます。

いて、女性のエンパワーメント向上を目的とした農村開発を計画していましたが、残念な結果となりました。

現在のインド政府は、NGO主導よりも政府主導による開発事業を重視する傾向が見られ、特にキリスト教系団体に対しては慎重な姿勢で対応しているように感じられます。この傾向は、モディ政権の長期化に伴い、今後さらに強まる可能性もあると思われます。

本会としても、今後の活動の進め方について検討を重ねています。引き続き関係者と協議しながら、今後の方向性を見出し出していきたいと考えています。（三浦照男）



# 農村開発と人材育成 持続可能な農業・農村開発

## 農業インターンシップ プログラムに参加して

大学2年 阿部柳太郎

私は3月1日から15日まで農業インターンシップ・プログラムに参加しました。私はもともとインドの歴史に関心があり、学生たちの農作業を手伝うことでインドの暮らしに直に触れてみたいと感じ今回参加しました。インドに着いてまず私は町の音と人の多さに圧倒されました。クラク



村の子どもとも仲良し 筆者（左側）

クラクシオンが鳴りやまず、車の逆走は当たり前、35℃近い気温の中、人がごった返している様子は日本の町とはまるで違い衝撃的でした。2日目には、三浦先生からマキノスクールの歴史や成り立ちについてレクチャーしていただきました。重機を使うのが男性に限られてしまうことからインドでは機械化が女性の農村での孤立を進めたという現実があり、それに対しマキノスクールは労働者の生活を第一に考え、持続可能な有機農業に長年取り組んできたことを学びました。近年、SDGsを筆頭に開発という言葉がよく使われますが、先進国が一方向的に技術を授けるのではなく、現地の暮らしをまず観察したうえで、その地域の生活に適した持続可能な支援をしていく必要があると感じました。学生との交流では、料理体験や食事の時間などの会話、農作業を通して、普段の生活について教えてもらったり、一緒にパーティーをして仲を深めたりしました。学生たちはみなフレンドリーに話しかけてくれ、私の拙い英語に真剣に耳を傾けてくれました。ヒンドゥー教の春祭りホーリー祭の期間にはお互いに顔に色粉を塗り合い、お互いの国のダンスを踊り、楽しい時間を過ごしました。一週間ほどマキノスクールで過ごした後、私たちツアー参加者4名+三浦さんの5名はバラナシの方に移動しました。バラナシではボートに乗って沐浴を見学したり、夜は毎日行われている礼拝ガンガーアールティを見学したりしました。太陽の方向を向き必死に沐浴する光景やサンスクリット語の経典に合わせて行われる儀式は、宗教が生活と結びついていることを感じさせ、普段教会に通っている私にとっても印象的でした。その後、ツアーの4名と別れ、残りの5日間は再びプラヤグラージのマキノスクールで過ごしました。一人で遠くの駅まで往復2時間半かけて散歩していても、その道中現地の子どもたちが不思議がって話しかけてくれたり、一緒に写真を撮ってくれたり

してインド人のフレンドリーさを改めて感じました。また、学生にインタビューする機会を与えていただき、カースト制度や生まれ故郷、なぜクリスチャンになったのかなどたくさんの質問に答えてくれました。カースト制度がいまだに結婚時など大きく影響を与えていること、多種多様な環境での生活を経て、神様と出会ったことを聞かせてくれました。最終日のデリー観光では歴史的な建造物やショッピングを楽しみました。一緒に同行してくれたスタッフがインドは東西南北それぞれ全く異なる文化で歴史がつくられてきたことを教えてくれ、また近いうちにインドを長期間訪れたいと感じました。インドでの2週間の旅を経て、インド人の温かさ、フレンドリーさに触れ、また訪れたいと感じました。

3月1～10日のインドスタディーツアーと3月1～15日までのインターンシップ・プログラムは同時開催されました。参加者は4名。マキノスクールの学生と一緒に様々なことを学びました。



マキノスクールの学生と野菜の収穫をするツアー参加者



異文化などについての話し合い。学生と共に。



農村訪問で昼食をご馳走になる阿部さん（右端）と参加者



3月5日のホーリー祭（祝日）にツアー参加者と学生、スタッフが色掛けを楽しむ。



# 2026年1月から3月までの出来事

## ありがとうございました

3年間マキノスクールで総務部主任として働いてくれたマーガレット・モロムー（右写真前列左より3番目）が3月21日をもって退職いたしました。今後、南インドに居住している夫と共に暮らすとのこと。彼女は総務の他に、有機農業組合の事務長、縫製事業の主任も務めてくださいました。心より感謝すると同時に彼女のご多幸をお祈りいたします。

彼女の後任として、以前マキノスクールで働いたことのあるニダ・カフィールがその任にあたることになりました。彼女は2児の母親で敬虔で温厚なイスラム教徒です。大学ではジャーナリズムを専攻し、英語に堪能、そして仕事を真摯にこなしてくれま。今後の活躍に期待しています。



マーガレットのお別れ会でのグループ写真

3月16日から20日までグルガオン地区にある神学校の附属農場主任と農業研修主任の2名（左より2番目と4番目）がキノ栽培、有機農業研修に訪れました。



2月1～5日まで日本の女子学生3名が短期研修をしました。学生との異文化交流、農作業、農村訪問、プラヤグラージ観光をいたしました。



農村訪問で農家に質問する学生と参加者



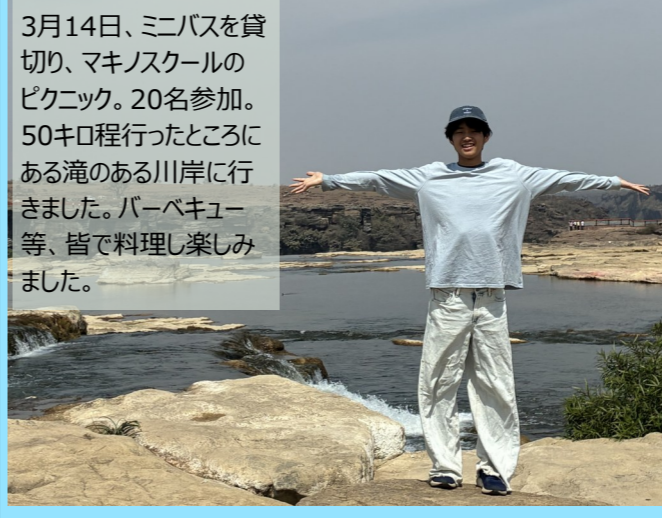
有機農家の野菜畑を訪問。

デリー日本人ボランティア会より寄付金がありました。お陰様で、中型カラーレーザープリンターを購入することができました。昨年度は総務部門にPCを購入するための寄付金を頂き、総務主任・ニダを中心に総務部門で使用しています。心より感謝いたします。



## マキノスクールピクニック

3月14日、ミニバスを貸切り、マキノスクールのピクニック。20名参加。50キロ程行ったところにある滝のある川岸に行きました。バーベキュー等、皆で料理しました。



## マキノスクールの学生、スタッフと交流しながらインドの農村、農業、異文化について感じ、体験、学びを

### 2026年度SCSAD学生募集

- 学費 50万円：含まれるもの：研修期間中の寮費 & 食費、インド国内交通費、研修旅行費、英語集中クラス代(2週間)、小遣い月500ルピー（約900円）研修旅行費（6日間程度）
- 渡航費、ビザ代、海外保険代は自己負担
- 応募資格：2026年9月1日～2027年3月20日 7か月間インドに滞在できる方、高校卒業以上、又は大学を休学できる方、心身健康、チャレンジ精神に富む方。お問合せ：recruitment@ashaasia.org（担当三浦）
- 応募締め切り 2026年7月31日